

指標名：ESPフォーキャスト調査(2009年7月)

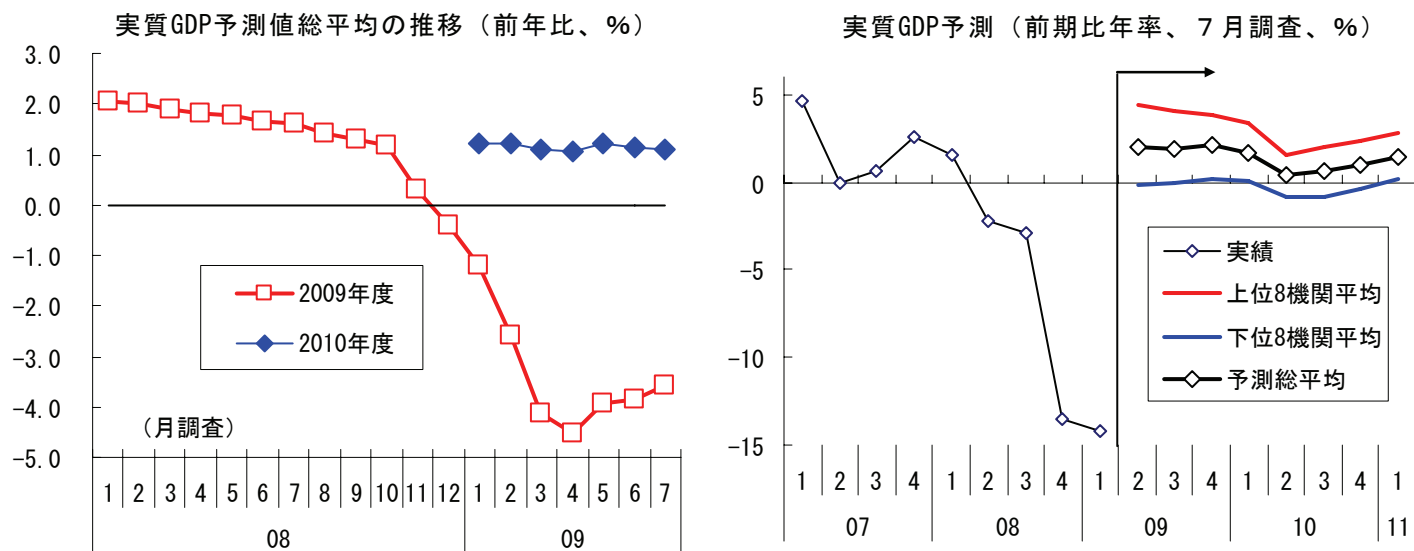
発表日：2009年7月9日(木)

～ 成長率見通しが3ヶ月連続で上方修正～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 主任エコノミスト 新家 義貴

TEL：03-5221-4528



(出所) 経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」より作成

○ 3ヶ月連続で上方修正

本日、経済企画協会から7月のESPフォーキャスト調査が発表された。ESPフォーキャスト調査は、40のエコノミスト・調査機関を対象にGDP成長率や消費者物価などについての予測値を集計しているものであり、月々のコンセンサスの推移が把握できる。

09年度の実質GDP成長率予測は前年比▲3.59%と、6月の▲3.86%から上方修正された。これで3ヵ月連続の上方修正であり、エコノミストの景況感が一時期に比べて上向いていることが窺える。今回の上方修正については、6月11日に公表された09年1-3月期GDP2次速報が1次速報から上方修正された結果、2009年度への成長率のゲタが▲4.6%となり、1次速報段階の▲4.9%から上昇したことの影響が大きいとみられる。また、後述するように、09年4-6月期の成長率見通しが前回調査よりも上方修正されていることも多少影響しているのだろう。なお、2010年度の成長率見通しは+1.11%と、前月（+1.13%）とほぼ同じだった。

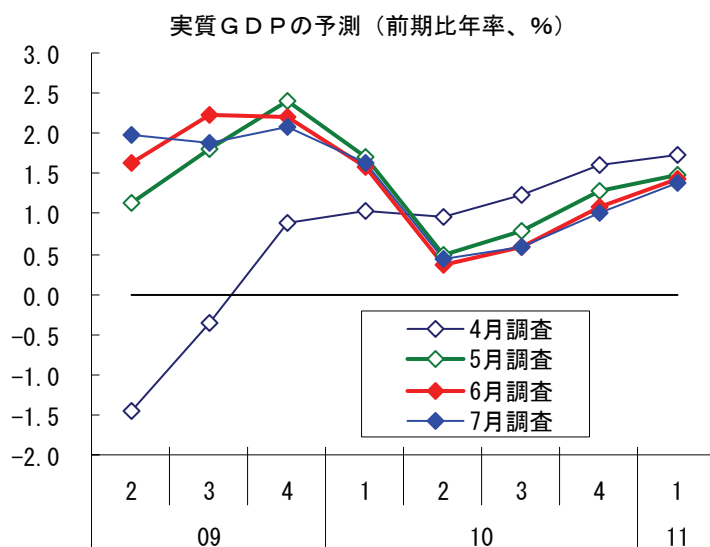
○ 4-6月期の成長率見通しが上方修正

四半期別にみると、09年4-6月期の成長率見通しが前期比年率+1.98%と、前月調査（+1.63%）から上方修正された。①輸出の持ち直しがはっきりしてきたこと、②エコポイント制度、エコカー減税などの効果から個人消費がやや上向いていること、③4-6月期の鉱工業生産の大幅増加が確実になったこと、④公共投資が増加しつつあること、などが影響していると思われる。なお、4-6月期については、高めの成長率を予想している8機関の平均は+4.41%となる一方、低めを予想する8機関の平均は▲0.13%とマイナス成長を見込むなど、現時点でまだ見方は割れている。

4-6月期の見通しが上方修正された反動もあって、7-9月期（+1.87%、前回調査：+2.24%）と10-

12 月期（+2.09%、前回調査：+2.21%）については若干下方修正されたが、潜在成長率を上回る成長が当面見込まれるとのコンセンサスには変化がない。

もっとも、そのまま成長率が持続的に高まっていくとの見方は少ない。10 年 4-6 月は+0.43%、7-9 月期は+0.58%と、10 年度前半にはゼロ%台にまで減速するとの見方がコンセンサスであり、低めの成長率を予想している 8 機関の平均では▲1 %程度のマイナス成長が予想されている。経済対策の効果が 10 年度に剥落することが景気の下押し要因になると予想されているためだろう。09 年度については明るい見通しが増えてきたものの、10 年度に対する見方は引き続き慎重な見方が多い。



○ 消費者物価見通しは大きな変化なし

消費者物価指数（コア）の予測値は、2009 年度が▲1.38%（6 月 ▲1.35%）、2010 年度は▲0.51%（同 ▲0.48%）と、前月からほとんど変化がなかった。ただし、原油価格の見通しが 09 年度に 61.18 ドル（前回 56.66 ドル）、10 年度が 68.07 ドル（前回 62.66 ドル）と上方修正されていることを考慮すると、実質的には物価見通しは下方修正といっても良いかもしれない。

08 年に生じた原油価格急騰の裏が出ることで 09 年 7-9 月期は前年比▲2 %程度までマイナス幅が拡大するとの見方が引き続き大勢を占めている。また、09 年 10-12 月期以降は、石油製品価格のマイナス寄与が縮小することから C P I 全体でも下落幅が縮小していくと予想されている。もっとも、大幅に拡大した需給ギャップの存在を背景とする物価下落圧力が根強く残ることから、2010 年度いっぱい C P I がマイナス圏で推移するとの見方が多い。

